

江戸時代後期に活躍した歌舞伎狂言の作者。鶴屋南北を襲名した者は五名を数えるが、単に鶴屋南北または南北という、通常はこの四代目のことをさす。主な作品に『東海道四谷怪談』『桜姫東文章』などがある。江戸時代の町人階級の生活を生き生きと写實的に描いた生世話物を得意とし、奇抜な仕掛けや早替りなどのケレンを多く作品に取り込み、人気を得ていた。

鶴屋南北

Tsuruya Nanboku

村山知義

Murayama Tomoyoshi

明治34(1901)年1月18日～昭和52(1977)年3月22日。劇作家、演出家、小説家、美術家。東京生れ。大正10年、東大哲学科を中退、翌年ベルリンへ留学。表現主義などに魅了され帰国後、柳瀬正夢らと前衛芸術集団マヴォを結成、前衛美術運動を主導。大正13年、『朝から夜中まで』の舞台装置で演劇界に入り、劇作、演出も旺盛に行う。次第に左翼演劇に傾倒し昭和3年に左翼劇場を結成、プロレタリア演劇の中心人物として活躍。三度の投獄を経験する。新劇団の再編成を考えるが思い描いた単一劇団は生まれず、新協劇団を結成。戦後、第二次新協劇団を経て東京芸術座を主宰。その間も童画や肖像画など、多面的に活躍し続けた。戯曲に「暴力団記」(昭和4)、「志村夏江」(昭和7)、その他著書多数。

1月25日(土) 終演後シンポジウム “歌舞伎旅景色～鶴屋南北編”

散る桜の行方をさがす物語

講師◎林公子 (シンポジウムには不参加)

近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻准教授。大阪出身。専門は歌舞伎史。江戸期における歌舞伎上演の社会的な環境が研究テーマ。高校時代から歌舞伎を見るようになり、大学時代に歌舞伎の歴史的研究の面白さを知ると同時に、広く、伝統芸能から現代演劇、民俗芸能からアジアの民族舞踊、舞踏、現代舞踊に至るまでに興味を持ち、今日に至る。「桜姫東文章」について言えば、現在の歌舞伎での上演の礎となった1967年の国立劇場の通し上演も、鈴木忠志による1970年の「劇的なものをめぐって」も、まだ演劇を見る年齢に達しておらず、見ていないが、1977年と1982年の南座での上演(5世坂東玉三郎・桜姫、12世市川團十郎・当時、海老蔵一清玄(77年)、15世片岡仁左衛門・当時、孝夫一権助)の上演は知っている。

パネラー◎陸奥賢

観光家 / コモンズ・デザイナー。1978年大阪生まれ。観光庁長官表彰受賞「大阪あそび」プロデューサーなどを経て、現在は「大阪七墓巡り復活プロジェクト」「東京七墓巡り復活プロジェクト」「まわしよみ新聞」「直観読みブックマーカー」「大阪モダン寺巡礼」「神戸デザイン・ツーリズム」などをプロデュース。NPOまちらぼ代表。

1月26日(日) 終演後シンポジウム 『村山知義』を再発見する。

講師◎正木喜勝

1978年京都生まれ。大阪大学文学研究科助教を経て、現在同招聘研究員。博士(文学)。専門は演劇学、近代日本演劇史。村山知義に関するものでは、博士論文「村山知義研究—劇場の中の革命」、劇評「描かれた村山知義の葛藤—やなぎみわ演劇プロジェクト『1924 人間機械』をめぐって」、共著『劇的尖端村山知義』などがある。大阪芸術大学で舞台芸術史の講義を担当。『京都芸術センター通信』(明倫art)に劇評を連載中。

パネラー◎井上理恵

演劇研究者。日本近代演劇史研究会代表。桐朋学園芸術短期大学教授。著書「久保栄の世界」「近代演劇の扉をあける」「菊田一夫の仕事」「ドラマ解読」他。日本演劇学会河竹賞受賞。日本近代演劇史研究会編「岸田國土の世界」「20世紀の戯曲I～III」出版など。「テアトロ」に<村山知義の演劇史>連載。

■ 料金 500円 (協会員無料)

■ お申し込み・お問い合わせ

一般社団法人日本演出者協会 関西ブロック事務局

e-mail:kansai@block@yahoo.co.jp

☎080-4025-2202 (関西ブロック事務局)

稽古場見学
出来ます!

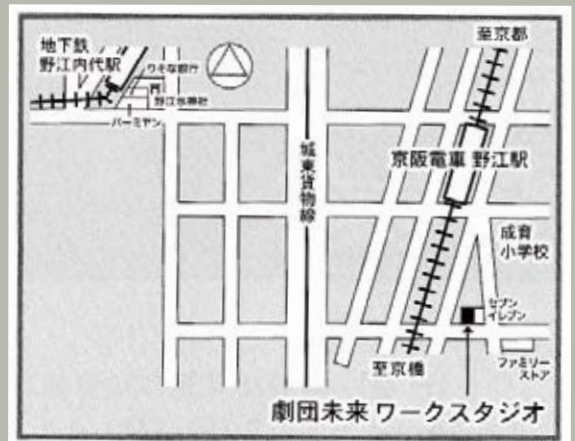
■ 公開研修について

ご希望の方は、各作品のお問い合わせ先にお申し込み下さい。

【稽古場見学お問い合わせ先】

鶴屋南北作品 ☎090-5257-1334 (笠井)

村山知義作品 ☎090-1248-1838 (林)



■ 劇団未来ワークスタジオ

大阪府大阪市城東区成育1-4-25 ☎06-6939-5777

○京阪電鉄本線「野江」線路沿いに京橋方面へ徒歩3分 ○地下鉄谷町線「野江内代」1番出口徒歩10分

【関西ブロック役員】 菊川徳之助・木嶋茂雄・深津篤史・田中孝弥・井之上淳・堀江ひろゆき
森本景文・今泉おさむ・木田昌秀・坂手日登美・金子順子・山本つづみ・椋平淳・笠井友仁
山口浩章・中嶋悠紀子【宣伝美術】前嶋のの